

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	福島県田村郡三春町字小浜海道38-4 2階		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fuji-i.co.jp/th-home/hohoemi.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	グループホームほほえみ 運営推進会議		
所在地	福島県田村郡三春町字小浜海道38-4		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A 朝礼時に皆で唱和しており、ホームとしてスタッフ全員に浸透し、実践につながっていると思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	C ホームも開設してから10年が過ぎ、地域で顔見知りの方も増えた。今年の八雲神社例大祭で獅子舞がホームに来られ、入居者がとても喜んでいた。ただ、コロナ禍で離れてしまった関係もあるので残念である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	B 1人暮らしの自宅で短時間過ごす事をする入居者に対し、ご近所の店の協力者と声を掛け合い本人の安全を確保する取り組みをしている方がいる。直接理解や支援の方法をお伝えしているわけではないが、何らか活かしているのかもと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	A 会議の中で、使用具によっては身体拘束に該当してしまうのか、の疑問や服薬拒否の多い方の対応についての相談をした。話し合った事を基にホーム内対応の追加・変更を行うなど入居者の方々の安全やサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A 行政とは運営推進会議を通して、情報交換を行っている。また、必要時にはお互い連絡を取り合うなどの協力関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B 全員揃っての勉強会は行えないが、当日不参加でも資料には目を通して。定期的に開催する安全対策委員会で、精神安定の頓服薬の副作用を考慮し、頓服薬をなるべく使用しない為に1階と協力しながら環境を変える事での精神安定を試みる話となり、対応している方がいる。段階があるので今後も行動は要注意である。		
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A 社会福祉士会主催の勉強会に今年度2名参加。今後も学ぶ機会に積極的に参加したい。安全対策委員会で1回の話し合いで入居者6名づつ、入居者本人のささいな変化の有無等確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B 成年後見制度を利用している方がいない。1階に利用者があり、管理者が主に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A 面談で文書等を利用しながら丁寧に説明し、同意を得ている。不安や疑問があればいつでも連絡するよう伝え、ご家族が理解・納得できるまでの対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A 5月より面会が出来るようになり、自分の家族の気になる部分をスタッフに確認される事もある。家族アンケートでの”事業所に改善してほしい点、気になる所”にコメントを書く方がいなかったため、直接スタッフに話せる雰囲気作りが出来ていると思う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	A 利用者の笑顔や安心、または運営に関して等、会議や日々の業務の中で意見や提案を聞き、事業所運営に反映させている。改善すべき点があれば管理者も、会社担当者や代表者に連絡・相談をし、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は提出される書類や、管理者からの報告等でスタッフの状況を把握すると共に、週末は運営しているホームを訪問。実際の働く環境の確認や、直接の意見や相談も受けている。資格取得の為に勉強会参加等は公休を利用してとなるが、状況によるシフト調整を管理者には伝えてある。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A 会社規定外の研修は業務に支障が出ない範囲であれば業務中の参加を認めている。ケア力向上の為に、ホーム内での勉強会を積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A 事業所の集まり、勉強会などで交流する機会を持っている。今年5月以降は外部の方に来ていただいた勉強会も再開した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	A 事前調査・アセスメント情報を基に、困り事や不安が少しでも少なく入居できる環境を作るようにしている。実際、入居当初から穏やかにいる方が多いと思う。入居後は本人の訴えや話、本人にとって心地よいスタッフとの距離感や関りなど、記録や申し送りで情報を共有し、対応にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	A 入居前相談・実態調査等で、形式的な話だけではなく、雑談の中で得られる情報も多いと考えている。ホームとして出来る事・出来ない事を踏まえた上で話し合いをし、誠実に対応する事で信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	A 事前相談でグループホームより合うサービスがあると判断した場合は、それを提案する場合もある。社会資源・地域資源の活用等も検討し、本人と家族等が望むサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A 「入居者を一方的に介護される立場に置かない事」とし、本人の出来る作業や手伝いがあればケアプランにも積極的に組み入れている。台所・掃除、など。行事内容も利用者の意見を取り入れながら計画を立てる事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	A 何か気になる様子があれば、必ず家族に相談をしながら対応を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B 友人や親せき等の面会はまだ慎重に対応している。本人の希望や用事で自宅に行く場合があり、近隣の方や新せきと会って話をする事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	A 互いに協力し合いながら生活している。入居者から「あの人がこういう事に困ってるって言ってたから助けてあげて」と聞く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	A サービスが終了しても、要望があれば相談や支援を行う体制にある。ホームの畑に花などを植えて手入れもしてくださったり、手紙やメールで近況をお伝えしてくださったりと、ありがたく思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	A 会話・言葉かけを大切に、表情や態度を確認しながら一人ひとりの希望・意向の把握に努めている。自分の思いを表現できない方は、家族・関係者からの情報や表情・態度で推測する事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A 実態調査で本人や家族・ケアマネや他関係者などから情報を収集。必要時には医療機関・地域の関係者から話を聞いたりなどで経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	A 一人ひとりの昼夜の生活サイクルや心身の変化等、大事な情報は記録・申し送りで情報を共有。その人に合わせた適切なケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B より良い暮らしの考えや受けたいケアについてはそれぞれなので、ケアプラン内容も個々に違っている。認知症における周辺症状や物忘れに対しても納得は入居者それぞれ違うので、改善解決ではなくて"現状おだやかを維持できるように"でケアプランが続く方もいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A 本人の状態把握を徹底。気になる様子があった際は記録に本人の様子や言動を細かく記載。対応についての話し合いは必要時随時行い、記録や申し送りで情報を共有。実践、計画見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A 可能な限り業務に捉われない行動と、ニーズに対応する柔軟な姿勢はいつも備えている。出前や食事メニューの変更、入浴も本人の様子により必要であれば予定時間外の対応もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B 5月よりボランティア受け入れを再開。数年ぶりに踊りの方がいらっしやり、入居者も楽しまれた。習字や裁縫もボランティアも再開したが、まだコロナ禍前の様子には戻っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A 入居者や家族の希望により医療機関を選択してもらっている。日頃の心身観察と適時適切なやりとりで、かかりつけ医との信用信頼の維持に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	A 看護師とは24時間のオンコールでいつでも入居者の体調に関して相談・支持を受けられる状態にある。状況により家族に相談し、必要な医療につなげ受診したり往診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A ご家族と役割分担をしながら入院中の入居者を支えている。入院時に、退院時の受け入れを確認される場合があり、継続的な医療処置がなければ退院時の受け入れを明確に伝え、入院中の状態確認と早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A 入居時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。事前確認書により本人や家族の意向も確認するが「まだ分からない」の答えも多い。その後経過により以降の確認はその都度対応。連絡を密にし、寄り添いを望むご家族には負担にならない程度にスタッフと共にケアを行ったり、役割を依頼する事も。昨年度も看取りをしたが、ほほえみで過ごせたことにも満足して頂いた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B 対応マニュアルがあり、スタッフが認識・対応できるようにしている。看護師や管理者への相談報告手順も整備されており、各自あわてず行動を心掛けている。実践力に関しては不安に感じるので、訓練はやっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B 火災・自然災害マニュアルを備え、事務所に掲示。2ヶ月ごとに災害に関する訓練を実施している。運営推進会議で地域として参加協力をしてくださる話もあったが、まだ実現できてはいない。10月の総合避難訓練での参加協力を検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A 一人ひとりの尊厳を守り、人格や考え方を否定せず、本人を尊重した言葉かけを心掛けている。対応の際の姿勢・目線・声の抑揚などにも配慮。ホーム内の写真や外部に出す入居者作品は承諾が得られた方のみである。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	A 現在は言葉で伝えられる方ばかりである。会話を多く持ち、その中で本人の思いや希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A 食事やお茶時間は決まっているが、それ以外は自由に過ごして頂いている。行事等の参加も声掛けの返答や様子により、本人の意思を優先。日々色々な予定はあるが、利用者本位の生活を優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	A それぞれに好むおしゃれが出来ている。服装を褒めると笑顔になる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	A 野菜の皮むきや調理を入居者と共に行っている。食器洗いには男性入居者が率先して入り、食器拭きを3食後女性入居者が行っている。感染予防の為、スタッフは同じテーブルで食事はとってはいないが、声かけ多く楽しい時間を共有している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A 食事、水分摂取量確認を1日を通して行っている。個々の栄養状態に応じて食事形態も考慮し変更。ご飯量や水分量に制限のある方も対応している。食欲のない場合には本人の好むものを準備。少しでも口から栄養を摂れるように工夫		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A 一人ひとりの出来る力、口腔状態によって歯磨きの声掛けや口腔ケアの実施、義歯の洗浄などを行っている。自歯の方には歯科医院による口腔ケアを提案することもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	A チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握。尿便意曖昧の方には排泄表を参考に声かけや誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A 規則正しい生活と食事にて便秘予防に努めている便秘傾向の方は乳製品等(ヤクルト、ヨーグルト等)を検討、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A 入浴剤を利用したり季節のゆず湯などを取り入れ、入浴を楽しめるよう工夫している。午前中を基本入浴時間としているが、入居者の様子や要望により時間外の対応も行う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A ほほの方は自然入眠している。入床時に添い寝をする事がケアプランにも入っており実施している方がいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A ケースファイルに最新の薬剤情報を入れ、いつでもすぐ確認できるようにしている。薬の変更や臨時処方があった時は、記録や申し送りでスタッフに周知状態を観察している。薬に関する疑問等があれば薬剤師に確認をし、安心安全な服薬対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A 嗜好品・役割は入居者の生活を生き生きさせる事、喜びが得られる事として大事にしている。コーヒー、饅頭、様々なお手伝いなど。また、季節の行事も楽しみしており、昨年は梅干し、今年は梅シロップを入居者と作った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B 今年5月以降から少しずつ外出支援を再開しているが、外食はまだ慎重に検討している最中。自宅の様子を見に行ったりお墓参りに行ったりなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A 紛失やもたられ妄想の観点から、ほぼ全員がお金は事務所で預かりしている。希望があれば一緒に買い物も行く。お盆にひ孫にお小遣いを渡したいと相談してくれた方は、8月初めから準備してひ孫が来るのを待っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A 希望があれば電話を掛けたり手紙を書いたり、自由にやり取りが出来るよう支援している。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	A 温度湿度計を確認しながら館内環境を調整。不穏時に色々集めてしまう方がいるので、不要なものは片づけて、見た感じはすっきりした印象である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	A 置場・ソファ・リビングテーブルなどで一人ひとり自由にテレビを観たり、新聞を読む、会話を楽しむなど思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	A なじみの家具、テレビやラジオ、置物を配置したり、写真や絵を飾ったりなど、その人らしい部屋となっている。本人の体調や要望によりベッドの位置変更を行ったり、希望があれば畳を敷いて布団を敷く対応もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	A ホーム内はバリアフリーで手すりもあり、一人でも安心安全な歩行が出来る。場所が分かりにくい所には貼り紙をするなど、入居者が困らないよう考え対応している。部屋の入口、トイレ、電気スイッチ、浴室等。		